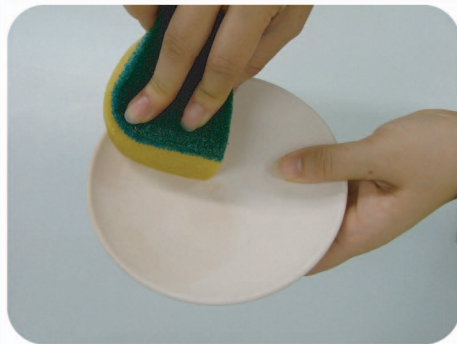


〇〇 染付の方法 〇〇

陶石を掘る→陶石を砕く→
粘土作り→成形→素焼き→
下絵付→**釉薬をかける**→
本焼き

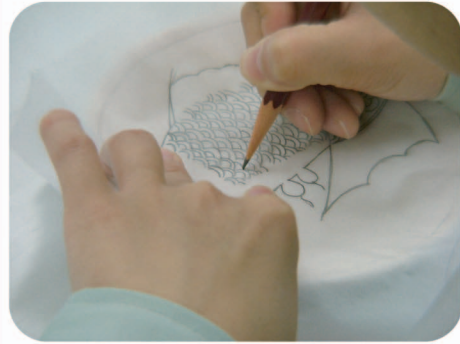
※ここでは、赤い部分の説明を
しています。



01 素焼きの皿の表面のほこりを取り
ます。



02 高台部分は、釉薬がかからない
ように撥水剤を塗ります。



03 フリーハンドあるいは転写して
文様の下描きをします。



04 呉須(絵具)に煎茶又は釉薬を混
ぜ、乳鉢でよく摺ります。



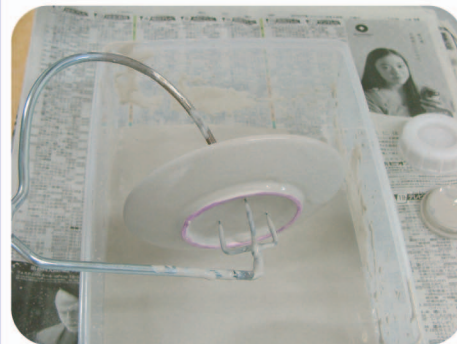
05 輪郭線を書くことを「骨描き」
と言います。少し多めに水分を
含ませると書きやすくなります。



06 色を塗っていくことを「だみ」
と言います。筆の跡をつけない
ように塗っていくのがコツです。



07 こすらないように注意して描き
上がった状態です。



08 下絵が乾いたら釉薬を掛けます。
釉薬は明石焼の生地ぐらいが丁
度良いようです。



09 乾いたら指先で平滑にします。



10 釉薬が剥げてしまった部分は、
筆などで再度釉薬を塗ります。



11 釉薬が乾いたら完成です。後は
焼成するのみです。

東山焼の絵付をしよう



東山焼とは

文政年間(1818~1830)頃に東山村(姫路市東山)で橋詰藤作(本名次作)によって始められた焼物で、染付や青磁などを主として生産していました。当初は民窯でしたが、後に男山山麓に移され姫路藩の御用窯となり様々な製品が焼かれました。

姫路市埋蔵文化財センター

参考文献

満岡忠成 1975『姫路藩窯東山焼』光美術工芸株式会社
鍛冶淳美 1995『東山焼』『姫路市史』第15巻中 別編文化財編1 姫路市
山本和人 2004『姫路のやきもの 東山焼試論』『姫路美術工芸館紀要』5 姫路市書写の里・美術工芸館

東山焼の絵付をしよう

2007年11月23日(祝)

姫路市埋蔵文化財センター

〒671-0246兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL (079)252-3950 / FAX(079)252-3952
URL <http://www.city.himeji.hyogo.jp/maibun-center/>

伊万里焼

伝世品や出土遺物、あるいは文献などから東山焼は伊万里焼と京焼の影響を受けて成立したと考えられています。しかし、流通範囲や窯跡の実態などは未だ明らかではありません。



姫路城下町跡から出土した東山焼

京焼

絵付、デザインは
京焼の影響

京焼陶工
尾形周平ら

指導

弟子入り

姫路藩士
橘 秋蔵



江戸時代後半には①東山焼以外にも②明石焼諸窯、③野田焼、④雲火焼、但馬の⑤出石焼、丹波の⑥王地山焼、摂津の⑦三田焼、淡路の⑧珉平焼などの諸窯が、伊万里焼や京焼などの技術を導入して成立しました。

天草石?

陶工?

窯道具、成形技法は
伊万里焼の影響



窯道具

東山焼



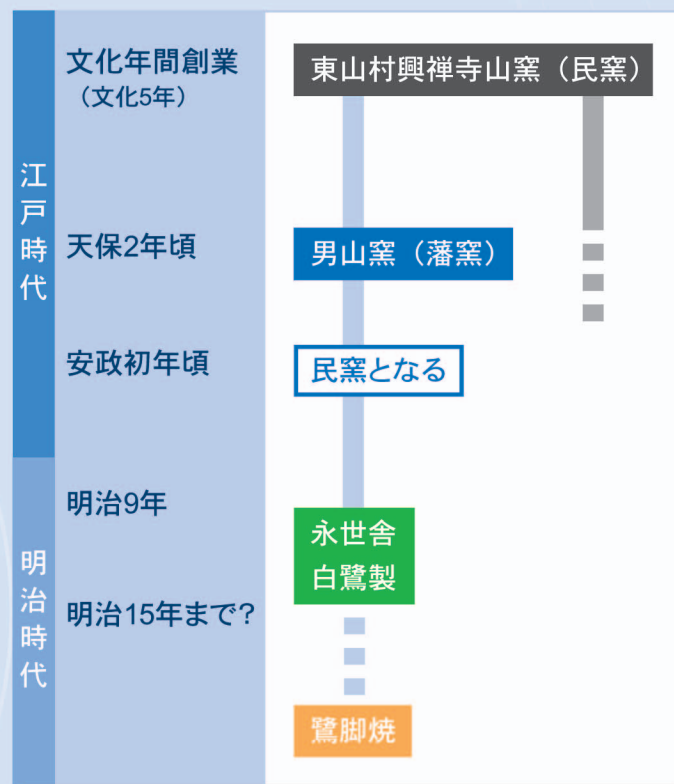
東山焼の窯跡位置図



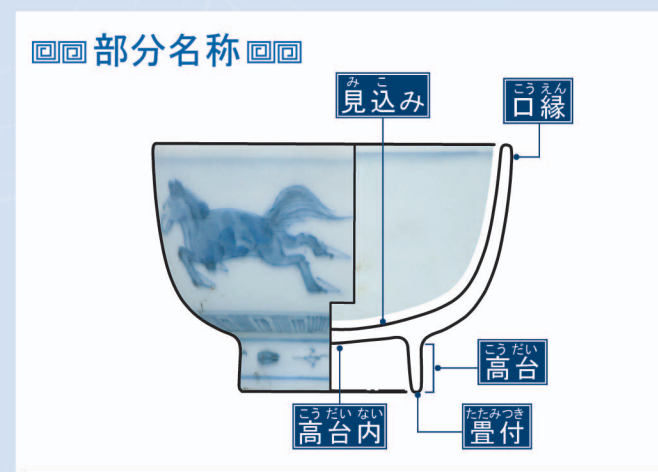
男山



興禅寺山



東山焼略年表



東山焼の銘